

【参考資料】 平成20年度 実績報告（恵南森林組合）

作成日：平成21年4月30日

施業集約化	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	108.93ha	199.04ha	182.7%	H21:254.12ha(H21年度中に完了見込み)	人工林:施業同意レベル 天然林:長期受委託レベル
いつ	H20年4月～H21年3月	H20年4月～H21年3月	/	通年対応を基本とする。	
誰が	集約化担当:中垣氏	集約化担当:中垣氏		○合意形成:中垣氏 ○杭打作業:生産森林組合、森林所有者 ○測量:森林5課、地元測量会社、臨時職員	中垣氏:上矢作地区担当者
どういう方法で	個別訪問(30軒) 地区座談会(2回)	個別訪問(40軒) 地区座談会(4回)		○合意形成:地区座談会の開催(4回程度) ○杭打作業:支援交付金を活用し生産森林組合等地元協力者の主導により林班単位で通年実施。 ○測量:緊急雇用対策で募集した臨時職員を境界測量を中心に集約化作業全般に従事させる。	森プロ団地周辺にロコミで取り組みが広がり同様の取り組みが進行中。 H21年度、森林境界明確化促進事業を活用し隣接エリアで300ha規模の集約化を計画。

間伐	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	利用:20ha 切捨:30ha	利用:22.41ha 切捨:75.22ha	112.1% 250.7%	H21:22ha H21:30ha	
いつ	H20年4月～H21年3月	H20年4月～H21年3月	/	梅雨、降雪期間を含めて出来る限り通年して素材生産。	
誰が	素材生産担当:森林2課	素材生産担当:森林2課		素材生産担当:森林2課	
どういう方法で	林分毎に最適の集材方法を選択し定性間伐	林分毎に最適の集材方法を選択し定性間伐		引き続き立木配置を考慮し定性間伐を実施。	H21年度、中核的作業道(自動車道2級)の開設によってババギ林道を延長しタワーヤダによる全幹集材を計画。

主伐[択伐]	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	3ha	0ha	0%	9ha	
いつ	5月～3月		/	H21～23年度	
誰が	素材生産担当:森林2課			素材生産担当:森林2課	
どういう方法で	ヘリコプター集材 or 集材機架線集材			ヘリコプター集材(149-0) or 集材機架線集材	

作業道(路)開設	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	W=3.0m,L=1,000m W=3.6m,L=1,000m	W=3.0m,L=442.1m —	44.2% 0.0%	H21:756m(路網連携等・自動車道2級)	開設費 W=3.0m:1,400円/m W=3.6～4.0m:6,000～50,000円/m
いつ	4～5月、7～12月	5月、7～2月	/	通年開設(梅雨、降雪時を除く)	
誰が	恵南森林組合	恵南森林組合		中核的作業道については地元土木業者へ外注予定。	
どういう方法で	設計・施工・管理:森林組合直営	設計のみ地元測量会社に外注。		開設技術の更なる技術研鑽と恵南地域の開設方針の確立に向けたOJT研修と実践を継続していく。	H21年度、中核的作業道(自動車道2級)の開設によってババギ林道の延長を計画。

素材生産	機械のみ更新(H19)		内容		
新規構築作業システム(機械の組合せ、種類・規格・台数)			伐倒:チェーンソー→集材:グラブ・スイングヤーダ(0.45)→造材:プロセス(0.45)→小運搬:クローラダンプ→積込・運搬:(新規)グラブ付トラック(6t)		
素材生産チーム数(チーム員数)	実施前 → 実施後 (H19) (H20)		1チーム(4人/班*2班)	1チーム(4人/班*2班)	
実稼働日数(日)			230	230	
素材生産コスト(m ³ /人・日)			3.65	3.65	
その他					
年間素材生産量	計画	実績	達成率	備考	今後の対応
モデル団地内	1,380	1,000	72.5%		ヘリ集材又はタワーヤダによる架線集材を中心に実施。
モデル団地外	8,880	7,391	83.2%		
合計	10,260	8,391	81.8%		

上記のほか、プロジェクト推進のために講じる具体的取り組み			
計画	実績	達成度検証方法	今後の対応
森林施業プランナーの育成	現場の森林技術者が座談会等で基礎整備を含めた将来に渡る森林整備方針について説明出来るまでになり、新たな森林施業プランナー＝森林官が誕生しつつある(作業道説明会1回、戸別対応:随時)。	森林施業プランの活用件数	森林施業プランナーが現場設計を確実に行うことで施業提案書の実用化を目指す(達成時期:H23年度)。プロジェクト完了後、団地内の次期5年間の総合整備計画を樹立する。
NPO等と森の健康診断実施 ※平成19年度、森林研究所と協議した結果、森の健康診断の実施では目標林型に向けた達成度の確認が出来ないと指導を受けたため断念。			
試験研究機関との連携による施業実施後の科学的評価(定点・追跡調査)	定点プロット内の立木本数(伐採木・残存木を記録)、胸高直径、樹高を調査(H20:2箇所)。	恵南地域標準施業体系図との比較による検証	定点プロット調査の継続実施。
えなの森林づくり推進委員会との連携	えなの森林づくり推進委員会にてプロジェクトの実施状況を報告(H20:1回)。	森林整備及び木材生産の取組状況を報告(毎年度、実施前・中・後の3回)。	えなの森林づくり実施計画(具体的な施策と目標数量を記載)に施業集約化のモデル事例として掲載し、今後、生産森林組合を核に各地域でミニモデル団地を設置し官民一丸となって集約化施業を展開予定。
森林所有者を対象とした意向調査	H20年度未実施。	写真等により森林所有者に施業実施後の様子を報告しアンケートをとる。	プロジェクト実施後、所有者アンケートを実施する。
その他	恵南地域森林づくりプロジェクトの取り組みが平成20年度(第46回)岐阜県林業経営コンクールにて「最優秀賞」を受賞。 恵南地域森林づくり会議の設立見込み(H21年5月)。		団地内森林所有者代表に表彰状を贈呈し地区公民館に掲示する。 森プロの進捗状況の地元報告と地域全域への普及を図る。